



episode 22 たいせつな娘への、究極の本音

投稿者 紫陽花 さま(東京都)

【たいせつな きみ】
 マックス・ルケード 作
 セルジオ・マルティネス 絵
 いのちのこば社 1998年



娘は本が大好きな子だった。祖父母から次々と贈られる新しい絵本。親戚、友人から譲り受ける数々の絵本。文字を読むのがままならない頃から、自ら絵本を広げ、絵の世界に…、大人が読み聞かせてくれる時には、物語の世界に…、どっぷり浸っているような娘。小学生の頃には、なじみの小児科に置いてある絵本を読破していたし、読書感想文で受賞経験もある。成長とともにその幅は、絵本から伝記、随筆、小説、論文へと広がり、大学は文学部。常に文字と戯れる日々を過ごしてきた娘。どこの親でもするであろう心配ごとは、私にだってあった。普通に。

半年前、私のこの呑気さを後悔する事態が起きた。社会人になって半年の娘が、私の元から離れた地で倒れた。一か月にもおよぶ入院。いつまた緊急入院となるかもわからない旨を、医師から告げられた上での自宅療養。「うちの子に限って…」よく聞くフレーズ。まさかこのセリフが頭をよぎる日が、私にもくるなんて。概ね病気は、本人、家族、医療者が一丸となって治療していくものだけど、娘の場合、「摂食障害」は、本人が治療に非協力的な構図となる点、厄介なのだと言われて説明を受けた。私は一頻り自分を責めた。もっと早くに、娘の異変に気づくべきだった。それ以前に、もっと根本的な育て方、接し方、お腹の中にいた時の何が悪かったのだろうか、過去のありとあらゆる反省、後悔を繰り返した。

そんなある日、私は『たいせつなきみ』を娘に贈った。娘にとって、いつぶりの絵本になるだろう。1ページ毎、セリフを復唱しながら読み進める娘。絵本を閉じた後の、娘の目には涙が滲んでいた。もちろん、これで病が治るほど、単純ではないと認識してはいる。それでも見えた、一縷の望み。回復の兆し。「生きていてくれさえすれば、それでいい」
 たいせつな娘への、私の究極の本音。

「絵本の日アワード in FUKUOKA 2022」投稿作品より



本連載は「医療法人元気が湧く」が主催する“絵本の日アワード”に応募された作品を掲載していきます。毎年、300～450編の応募がある「絵本にまつわるエピソード」の作品から、「絵本の魅力」と「絵本のチカラ」のつまったエピソードを選び、その魅力と感動を読者の方々にも共有していただきたいと願って、投稿者の了解を得て紹介しています。さらに、人に影響を及ぼした絵本のバックグラウンドについて、司書の専門的な視点による解説を加え、一冊の絵本のある部分では“深く”、そしてある部分では“広く”、興味を広げていただきたいと企画しました。



「きみはだめじゃない」

1997年の初版発行から10年で100万部を超え、全米ベストセラーとなった『You Are Special』の邦訳絵本が出版されたのは、1998年でした。2024年に25周年を迎えた日本語版『たいせつなきみ』は、日本でもロングセラーの絵本です。

2019年には、邦訳20周年記念としてサイズを小さくし、表紙絵も変えた『たいせつなきみ』限定版が発行されました。この限定版の表紙帯には、「世代を超えて読み継がれ、二十歳を迎えた『たいせつなきみ』」というキャッチフレーズが、控えめな白文字で書かれています。その対角には、白文字の倍サイズの赤字「『きみはだめじゃない』 世界中の“パンチネロ”が泣いた、愛の物語」がひとときわ目を引くのです。

「きみはだめじゃない」。多様性の時代、SNS時代の現代にこそ、子どもの心にも大人の心にも効く処方薬となるでしょう。



評価の時代に問うてくるもの

初版絵本の表紙（左頁画像）の木彫り人形は一見、『ピノキオ』を彷彿とさせます。これは『ピノキオ』ではなく、木彫り人形の小人“ウイミック”のお話なのです。

ウイミックの世界では、優れた技能や美しさをもつ小人には「金びかお星さまシール」、木に傷があったり失敗したりする小人には「灰色ダメ印シール」をお互いに貼り合う習慣があったのです。

20世紀末に刊行された物語は、後の21世紀の社会を予言しているかのようです。SNS上で根拠のない他者批評が一人歩きし、何でも評価付けが当たり前、良いものランキングならまだしも、嫌いな芸能人や消えてほしい芸人ランキングまでまかり通る現代を映し出しているかのようです。



年代や国境を越える！

本作を読んだ者は一様に、個性というものを感じ取

ることでしょう。読者のおかれている環境に応じて、主人公と自分を重ねたり、主人公の友だちルシアと重ねてみたり、あるいは何でもこなせる小人と重ね合わせる方もいるかもしれません。万人に、すんなりと受け止められる多様性のお話です。しかし、クリスチャンには、キリスト教の教えを前提に読まれています。なぜなら、作者がキリスト教の牧師だからです。

作者は、アメリカのテキサス州にあるオークヒルズ・キリスト教会のマックス・ルケード牧師です。ルケード氏は、100冊以上の著作があり、クリスチャン・ブック・オブ・ザ・イヤー金賞を3度受賞している、牧師にして有名な作家なのです。

ストーリーを通して深い真理を語るルケード牧師は、創作する理由を「年代や国境を越えることができるのが物語の素晴らしさだ」と述べています。すなわち、『たいせつなきみ』は、年代も国境も越える深い真理の物語というわけです。



人の思いと力が物語を動かした

『たいせつなきみ』を日本に紹介したのは、クリスチャンの翻訳家ホーバード・豊子氏です。キリスト教と無縁だった彼女は、結婚を機に、人種や国籍を超えて互いに親しみ、生き生きと神に仕えるクリスチャンに心動かされて、洗礼を受けるのです。

そして、神の愛を何かの形で表現し、伝えたいという願いが湧き起こった頃、書店で『You Are Special』と出会ったのです。「このお話が語っている神の愛のメッセージをぜひ、日本の方々に紹介したい」という思いが与えられ、突き動かされるように翻訳したことを、邦訳20周年記念インタビューで振り返っています。

50周年の物語もみてみたいものです。

文献

- 1) 藤原とみこ：「大切な存在」伝えて20年 絵本『たいせつなきみ』を日本で初めて邦訳・紹介した翻訳家、月刊いのちのことば 2019年10月20日号、p.8, 2019.
- 2) 南 早枝：マックス・ルケードによる絵本シリーズ『たいせつなきみ』の日本人読者に対する影響，四国学院大学大学院文学研究科紀要 15, pp.1-10, 2017.